

1. 教育の責任

本学学則第1条にある“STUDY FOR LIFE（生涯にわたる、人生のための学び）”に基づき、本学学生に医療人としての高度な専門教育を行い、優れた国際感覚を持ち、日本だけでなく国際社会に貢献することができる人材を育成します。

2. 教育の理念

文化や価値観などの多様性を理解できる医療者の育成はこれからの日本にとっては重要です。国籍や人種にとらわれずに弱者に寄り添える医療人の育成を教育と研究の両面から行います。

3. 教育の方法

教育の目的と目標

教育目標：地球上のすべての地域に暮らす人々が人間らしく生きるために必要なグローバルヘルスの考え方を理解し、健康支援を実践できる能力の基本を教授します。

教員としての目標：国際看護学を学ぶ大学生や大学院生にとって必要な知識を自らの経験を通して教授します。

学生に求めること、学生に対する期待：自分が「面白い」と思える対象を発見することが重要です。不得意なことの中に「面白い」ことが見つかることがあると思います。

教育実践

学部1年生で「化学」「生物学・細胞生物学」の基礎科学、「生化学」「薬理学」の基礎医学を教授します。2年生では専門別の「病態学」によって臨床医学について教授します。医療系の教科書はデジタル教科書を使用し、要点をレジメにまとめて学修の理解と復習を促します。知識の確認には課題レポートを出し、el-Campusを通じて双方向のやり取りを行います。

大学院では国際母子保健領域の研究を指導し、講義として「国際保健活動特論」、「保健データ解析特講」、「デジタルヘルスクア特講」で研究の基盤を養成すると同時に、最新科学に触れる機会を提供します。課外授業として担当する英文抄読会では、英語論文を用いて論文の正しい読み方を教授します。

4. 教育の成果

授業アンケートでは学生にはおおむね好評のようですが、高校時代に「化学」「生物」などの理系科目を受講していない学生も多く、理解を促すための工夫が必要だと感じています。2022年度の看護師国家試験合格率は96.2%と全国平均を上回りましたが、不合格者の1年次の成績は低いため、初年度の学修が重要です。

担当する大学院生は各自の研究を順調に遂行しており、学会等にも積極的に参加しています。

根拠資料：授業アンケート 課題レポート、学会発表資料

5. 改善への努力と今後の目標

目標に対する自分の課題：学部で教授している科目はいずれも看護学を理解する上での基盤です。そのため講義内容が国家試験に結びつく知識となるような工夫が必要です。（例、自主学習の強化など）

課題の解決方法と今後の計画：2023年度から変更された学部教育での担当科目での基礎科学知識を教授すること、大学院教育での講義以外の演習や学外活動の強化を図ります。

【添付資料】

シラバス、レジメ、課題レポート、出席レポート